

谷津ミュージアム事業推進専門家会議 会議の概要

1 会議の名称

平成21年度 第1回谷津ミュージアム事業推進専門家会議

2 開催日時

平成21年9月18日(金) 午後1時30分から午後5時30分まで

3 開催場所

我孫子市消防本部2階大会議室

4 出席又は欠席した委員その他会議に出席した者の氏名

(出席委員)

中村 俊彦	浅間 茂	平岡 考
元木 恵	小池 洋子	

(事務局)

木村課長 成嶋主幹 鈴木 伊藤

5 議題

谷津の維持管理手法について

ホタル・アカガエルの里～ポンプ小屋周辺

八ヶの道

木道設置箇所(都部630番地付近：通称ハンノキ通り)

オオフサモ繁茂地(岡発戸973番地：通称カワセミ池)

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人

7名

8 会議の内容

谷津の維持管理手法について

事務局より

ホタル・アカガエルの里～ポンプ小屋周辺について

今まで行ってきた作業とホタルの出現数・アカガエルの卵塊数のデータについて、ホタルの出現数は増加の傾向があるが、アカガエルの卵塊数については減少傾向にあることを説明し、現状の維持管理手法のままでよいのかご意見を伺いたい。

ハケの道について

谷津を散策している方よりハケの道が暗いと怖いという意見があり、普段、維持管理をしている方たちが精力的に草刈りを行っている。また、エリア分けをしてエリアごとに管理手法を変えて植生を見てはどうかという意見も出ている。

木道設置箇所について

木道設置箇所周辺にもホタルが出現しており、現地を視察し維持管理手法についてご意見を伺いたい。

オオフサモの管理について

ある程度の効果が出ているので、生物のために水を入れて池に戻し、出てきたオオフサモを、随時、駆除した方がよいのではないかとご意見を伺いたい。

委員から次のような意見があった。

ホタル・アカガエルの里～ポンプ小屋周辺について

- ・アカガエル卵塊数の減少については、捕食者が増えたことによる影響ではないか。今後、2～3年様子を見て卵塊数が安定してくれば捕食者とのバランスが取れているということ、どんどん減っていくようなら対策が必要だが、今は様子を見てはどうか。
- ・アカガエルだけを見るのではなくて、あくまでも指標の一つとした方がよい。
- ・ウシガエルは駆除したほうがよい。
- ・ポンプ小屋裏の湿地は草を刈ったほうがよい。

ハケの道について

- ・ハケの道に暗い場所があっても良い、明るい場所とのメリハリをつけると良い。

目道設置箇所について

- ・ホタルについて水の流れがないと酸素不足になり、エサとなるモノアラガイが少なくなる。

- ・セリ摘みにより、湿地が踏み荒らされてしまうと幼虫が蛹化できなくなるので、「ホタルが羽化中です。別の場所をお願いします」というような丁寧な案内を出して場所を制限する必要があるのではないか。セリ摘みが出来る場所を造ってもいいかもしれない。

オオフサモ繁茂地について

- ・オオフサモについては 3 年計画の通りに実施するのもいいし、話し合っただけ生物のために水を入れて管理するのもいい。いずれにしる人手を確保できるかが問題で、オオフサモが外に出ないようにして欲しい。カワセミ池は、谷津の上流部の一等地にあたるので大事に検討して欲しい。ミュージアムの会でも友の会でも検討すべきことだと思うので、丁寧に議論を積み重ね、皆の共通理解でやればいいと思う。

その他

里山について

- ・現在の谷津の森林は雑木林というより原生林に近い状態、もう少し手を入れてもいい。
- ・林部の多様性が衰えているので、草地的な明るい森林、コナラ・クヌギの雑木林で 10 年に 1 回くらい刈るような場所を作った方が多様性は上がると思う。
- ・森林としては老朽化しているので、大きい木を切り出して若い木を育てたほうが良い。切った木は朽ちればカブトムシの幼虫が住み着き、それを狙ってタヌキが来る。切った木の活用方法は色々あるので、少しでも活用した方が昭和 30 年代に沿っているのではないか。
- ・木を切るとしても全体のバランスを考えないと、生態系が変わってしまう。

上流部・水路について

- ・上流部について、市民と一緒に草を刈る場所や残す場所等を議論する機会を持って、細かく将来図デザインを作成し、課題を整理して、その場所ごとにできないことを把握した方が良い。
- ・谷津の最上流部についても、谷津の水源として、ため池・遊水地を造り、水を浄化して流せば水質改善につながり、ハンノキなどがあるような景観にすると良い。
- ・水路について、土水路にした所は非常にいいので、下流も上流も土水路にするようなデザインを市民と作ると良い。

草刈りによる水位の変動について

- ・草刈りをすれば蒸散量が増えるので水位は下がる、水位を下げないようにするならば刈草をそのままにする。浄化を考えれば刈草は搬出した方がよい。
- ・データを見る限り地下水位は下がっており、普通に考えれば、地下水位が下がれば地上の池の水位も下がるはず。不透水層があれば、地下水位が下がっても地上の水位に影響はないのかもしれない。
- ・草自体の蒸散作用も大きく、草刈りをしただけで水位が下がるとは考えにくい。
- ・草が「秋に枯れて、また生えて」を繰り返していくうちに、段々と陸化していくという話は聞いたことがある。

田んぼについて

- ・もう少し田んぼを増やしていくような方策を考えたいほうがよい。広報などで大規模に市民を動員し、細かく区分けをして市民田んぼにしてはどうか。また、古代米や無農薬等の条件付けも必要ではないか。
- ・「古代米」というキーワードは市民の目を引くので有効ではないか。
(例：「一坪田んぼで古代米を作ろう」)
- ・谷津に合った小型の機械ならば、一部機械化を考えてもよいのではないか。

全体的な維持管理について

- ・作業小屋周辺は、多自然型水路の整備により生物多様性が向上し、以前より良い環境となったが、上流部は悪化している。
- ・谷津という環境を守っていくことが大切なのではないか。
- ・草刈りや森林の管理について、昭和30年代では、一面田んぼで林は薪炭林でこまめに手を入れて管理していたかもしれないが、今後は、谷津を区分けして色々な環境を作った方がよいのかもしれない。
- ・ヤブについて、谷津の広い面積の中の一部であればよいのではないか。ヤブを好む生物もいる。
- ・昭和30年代の景観と生物多様性のバランスをどのように考えるか話し合っていないと難しい。色々な意見があると思うが、会で運営するならば、基本方針を決めてグループごとに分担を決めてやっていくのがよいのではないか。
- ・草刈りも目的により手法が変わってくる。また、刈ったことでどう変わってくるかも見ないといけない。
- ・全てをしっかりとやるのは大変だし、手を抜きすぎても自然はすぐに多様性を失ってしまう。「程々に手を加える」というのが大事。
- ・それぞれが維持管理について色々な意見を持っていることは良いことだと思う。

- ・オオブタクサを紙などに利用できれば、小学校の環境学習等にも活かせるのではないか。
- ・ヨシが少なくなってオオブタクサが増えた。中途半端に草を刈るとオオブタクサなどが増えてしまう。

維持管理手法別意識調査表について

- ・草刈り手法別意識調査表について、意見を集約するうえでよい方法ではないか。合意形成をする場合には、この調査表等を元にどの管理手法が良いのか結論を出す必要がある。また、区分けをしてエリアごとに実施することで、そのエリアに生息する生き物を項目として挙げるができるのではないか。

【今後の課題ポイント】

ホタル・アカガエルの里～ポンプ小屋周辺について

- ・湿地を踏み荒らされないような対策
- ・アカガエル生息域の維持管理手法
- ・ウシガエルの駆除実施
- ・ポンプ小屋裏の草刈りの実施

ハケの道について

- ・メリハリをつけるエリア分けの検討
- ・湿地を踏み荒らされないような対策

木道設置箇所について

- ・ホタル生息域の維持管理手法
- ・湿地を踏み荒らされないような対策

オオフサモについて

- ・オオフサモが繁茂地以外に出ないような対策

その他

里山について

- ・里山の管理と間伐材の活用方法

上流部・水路について

- ・将来図デザインと課題の把握

草刈りによる水位の変動について

- ・ 地下水位と草刈りの関連性

田んぼについて

- ・ 現在管理作業を行っている田んぼ面積、労力の検証
- ・ 小型機械による作業の一部機械化の検討
- ・ 田んぼの拡張、市民田んぼの実施検討

全体的な維持管理について

- ・ エリア分けの実施
- ・ 昭和 30 年代の景観と生物多様性のバランス
- ・ オオブタクサ対策

維持管理手法別意識調査表について

- ・ エリアごとの意識調査の実施検討
- ・ 調査表の項目検証